

国家資格“第三種電気主任技術者”って知ってます？

電気主任技術者は、電気系に携わる方なら社会人から高校生まで良く知られている国家資格だと思います。でも、知らないという人のために、少しだけかみ砕いて説明します。電気の設備がある工場やビルなどには、その工事・保守や運用などの責任者をおこななければならないことが法令で義務付けられています。この責任者になるためには、**電気主任技術者の資格を持っていない限りなりません。**

このため特に、メーカや電気工事会社では、仕事をするうえで大変役立ちます。一方で、その合格率10%前後であり、**この資格の所有者は業界での高い評価を受けます。**もし、学生のうちに取得できれば、今後の人生で大きなメリットとなる資格です。

電気電子情報工学科では、電気系国家資格の最高峰（注意）ともいえる第三種電気主任技術者の資格取得をめざし「電験三種支援講座（検定）」などの科目を設け、学生を支援しています。

注意：電気主任技術者の資格には、第一種、第二種と第三種があり、第一種が最も高度な知識と技術を要求されます。この他、技術士という国家資格もあります。

合格した学生に聞いてみよう！

藤井 陸さん（3年，神奈川県，港北高校）。こんにちは。私は平成三十年の電験三種試験で四科目全て合格することができました。受験するきっかけは幅広い電気の知識が習得できると思ったからです。学習は四月から週五日程度行いました。使用した参考書は、大学の先生に勧められた「これだけシリーズ」です。学習方法についてですがノートにまとめるということはずらずに参考書を読んで演習を行うというのを続けました。学習した科目の順番は理論、機械、電力、法規です。学習計画についてですが六月から二週ごとに一科目ずつ大学で電験三種支援講座があることを知っていたのでそれまでに各科目とも一通り学習しておくという計画を立てました。電験三種支援講座は学習のペースにもなりますし、一通り学習した内容の理解を深めることができるとも優れています。理解した内容で得点力が向上することを実感できます。四科目の講座が終わった後は過去問を解いて復習をするというのを繰り返しました。試験当日は電力と機械は少し簡単で法規が難しく感じました。私の今後の目標は電験二種に合格することです。そうすれば今回習得したことは忘れないからです。最後に、電験三種は高い壁のようにも感じられますが乗り越えられない壁ではないと思います。できないところを一つ一つなくしていけば合格できると思います。



科目紹介「電験三種支援講座（検定）」

電験三種合格をめざし、本学科の客員教授・安本浩二先生が徹底指導します。安本先生は、技術士，第二種電気主任技術者の資格を有し、大手電機メーカーの主任技術者も務めています。理論と実際を知る名実ともに電験三種の先生です！講座は、前期・土日の4日間（15コマ）で、計算問題の解き方を中心に指導してもらえます。こんな先生、ほかにはいないよぉ・・・きっと。



ホームページ：<http://www.kait-ele.jp> ダウンロードできるよ
発行：神奈川工科大学 工学部 電気電子情報工学科
カイトイーレター編集委員会



神奈川工科大学
電気電子情報工学科



@kait_ele2014

OBインタビュー

社会で活躍する本学科OB・OGのインタビューコーナーです。今回は、本学科につとめる安倍先生にお話しを伺いました。



安倍和弥 先生 2014年度、博士後期課程を修了しました。現在は本学にてポスト・ドクター(ポスドク)として勤務しています。ポスドクとは博士号取得後に大学のプロジェクトなどで雇われて研究を行うものです。

本学への入学を検討した最大の理由は、当時太陽光発電に興味があり、本学に学生が主体となり大会出場なども行っているソーラーカープロジェクトがあったためです。入学後には1年次から設計や整備などに参加でき、鈴鹿でのレースの際もピットクルーとして参加できるなど、重要な仕事も学生が行うような環境があります。卒業及び修士・博士の研究は医療画像関係を選び、現在もその系統の研究を行っています。最後

まで発電系の研究も検討していましたが、父の急病などから医用画像に触れる機会が増え、コンピューターによる診断支援というものに興味を持ちました。

今のポスドクとしての主研究は、画像認識技術を用いたドラックデリバリーシステム(以下DDS)の性能評価となっています。DDSは病変に直接薬剤を届けるカプセルの研究であり、私はカプセルの実際の動きなどを映像より識別し、正しく届いているかなどの評価を行っています。

4年生が国際会議 (IAC2018) でポスター発表

矢澤拓海さん(4年、長野県、飯田OIDE長姫高校)

9月にアメリカのセントルイスで行われた国際学会でポスター発表を行いました。もともと、日本とは異なる文化圏を見たいと思っていました。また、国際学会はどういったものなのか興味があり、今回参加できる機会があったので参加しました。初めての海外で不安でした。しかし、現地で日本とは異なる景色や地平線を見て、気分が高揚しました。見たことない飲み物やお菓子など様々なものに挑戦しました。学会は、私自身英語が苦手ですが、練習の成果や先生と先輩のサポートもあり無事学会を終えることが出来ました。学会で発表したことで自信ができました。しかし、英語で会話する能力の不足や英語への苦手意識から積極的に会話するといったことが出来なかったと思

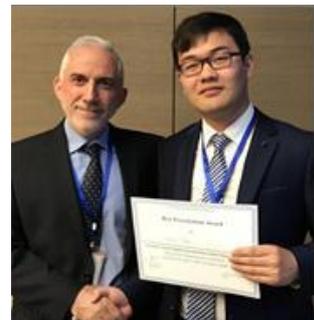
います。来年度はスウェーデンで学会が行われるので、参加できるように研究や今回課題に感じたことを改善するといったことに取り組んでいきたいです。



学会に参加した学生達。一番左が矢澤さん。

国際学会でBest Presentation Awardを受賞

4月に国際学会「2018 International Conference on Power, Energy and Electrical Engineering (東京)」が開催され、世界各国から電力エネルギー関係の研究者が参加し、活発な議論が行われました。本学大学院電気電子工学専攻2年生の楊 帥さん(中国揚州大学からの留学生：板子研究室所属)が、太陽光発電システムのための新しい高効率制御法に関する研究成果のオーラル発表を行い、Best Presentation Awardを受賞しました。



PV Japan 2018で研究成果発表



6月に開催された太陽光発電関連の主要な展示会「PV Japan 2018 & 再生可能エネルギー世界展示会」に、大学院1年生の竹田雄亮さん、学部4年生の丹治宏彰さん、藤井優貴さん、小井沼和哉さん、大谷敦也さんが参加しました。

太陽光発電システムのアレイの光が不均一な場合でも、各パネルの出力可能電力を100%取り出すことのできるアクティブPVアレイの研究成果、太陽光発電システムを運用しながらリアルタイムでパネルのホットスポットを検出し、さらにその発熱を抑制するための新しい制御方式について研究成果を発表しました。

奨学金返還免除

2018年3月修了の中田悠太さんが、大学院在学中に特に優れた業績を挙げ



たとして、日本学生支援機構から貸与を受けた大学院第一種奨学金の返還を全学免除されました。

